

職業実践専門課程の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地																				
東京電子専門学校	昭和51年10月1日	伴場 次郎	〒170-8418 東京都豊島区東池袋3-6-1 (電話) 03-3982-3131																				
設置者名	設立認可年月日	代表者名	所在地																				
学校法人電波学園	昭和30年9月27日	山口 高広	〒170-8418 東京都豊島区東池袋3-6-1 (電話) 03-3982-3131																				
分野	認定課程名	認定学科名		専門士	高度専門士																		
工業	工業専門課程	情報処理科3年制		平成8年文部科学大臣告示第200号	-																		
学科の目的	3年間という学習期間を生かし、ITの知識についてより幅広く・深く学習出来るカリキュラムを構成し、プログラムだけでなくネットワークやデータベース、セキュリティなどにも精通したより高度な知識を持つ人材の育成を目指す																						
認定年月日	平成27年2月17日																						
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技																
3年	昼	2,730単位時間	1,140単位時間	30単位時間	1,680単位時間	0単位時間	0単位時間																
生徒総定員	生徒実員	留学生数(生徒実員の内)	専任教員数	兼任教員数	総教員数																		
180人	144人	0人	9人	11人	23人																		
学期制度	前期:4月1日～9月30日 後期:10月1日～3月31日		成績評価		■成績表: ■成績評価の基準・方法 評価基準は80点以上をA,70点以上79点未満をB,60点以上69点未満をC,59点以下を不可とする。 成績評価は試験、平常の成績、実習等の成果物により行う。																		
長期休み	夏期:7月20日～8月31日 冬期:12月20日～1月7日 学年末:3月31日		卒業・進級条件		■卒業条件 教務で定めた必修科目を修得し(成績評価がC以上)、必修科目、選択必修科目を含めた修得科目(成績評価がC以上)の総時間数が2550時間以上、かつ取得単位数が143単位以上取得した者 ■進級条件 教務で定めた必修科目を修得し(成績評価がC以上)、必修科目、選択必修科目を含めた修得科目(成績評価がC																		
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 保護者との連携、個人面談、電話・メール連絡、補講 心理カウンセラーのカウンセリング		課外活動		■課外活動の種類 企業との勉強会、学内セミナー、学園祭 ■サークル活動: 有																		
就職等の状況※2	■主な就職先、業界等(令和2年度卒業生) IT業界、システムインテグレータ等 ■就職指導内容 個人面談、校内企業説明会、インターンシップ等 ■卒業生数 : 23 人 ■就職希望者数 : 0 人 ■就職者数 : 20 人 ■就職率 : 87 % ■卒業者に占める就職者の割合 : 87 % ■その他 令和2年度卒業者に関する 令和3年7月31日時点の情報)		主な学修成果(資格・検定等)※3		■国家資格・検定/その他・民間検定等 <table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ITパスポート</td> <td>国試</td> <td></td> <td>80</td> </tr> <tr> <td>基本情報技術者</td> <td>国試</td> <td></td> <td>10</td> </tr> <tr> <td>応用情報技術者</td> <td>国試</td> <td></td> <td>1</td> </tr> </tbody> </table> ※合格者数については令和3年7月末時点で在籍している学生の総取得者数を掲載 ※受験者数は個人申し込みなど学校経由でない受験者もいるため総数は把握せず			資格・検定名	種	受験者数	合格者数	ITパスポート	国試		80	基本情報技術者	国試		10	応用情報技術者	国試		1
資格・検定名	種	受験者数	合格者数																				
ITパスポート	国試		80																				
基本情報技術者	国試		10																				
応用情報技術者	国試		1																				
中途退学の現状	■中途退学者 6名 ■中途退学の主な理由 中途退学の主な理由) 経済的理由、家庭の事情、体調不良 ■中退防止・中退者支援のための取組 保護者との連携、個人面談、三者面談、電話・メール連絡、心理カウンセラーのカウンセリング、学費のための相談員配置、補講実施		中退率		5%																		
経済的支援制度	電波学園奨学制度、日本学生支援機構、東京都育英資金、東京電子専門学校学資ローン、オリコ学資サポート等の各種奨学制度。																						
第三者による学校評価	無																						
当該学科のホームページURL	https://www.tokyo-ec.ac.jp/																						

(留意事項)

1. 公表年月日(※1)

最新の公表年月日です。なお、認定課程においては、認定後1か月以内に本様式を公表するとともに、認定の翌年度以降、毎年度7月末を基準日として最新の情報を反映した内容を公表することが求められています。初回認定の場合は、認定を受けた日以降の日付を記入し、前回公表年月日は空欄としてください

2. 就職等の状況(※2)

「就職率」及び「卒業者に占める就職者の割合」については、「文部科学省における専修学校卒業者の「就職率」の取扱いについて(通知)(25文科生第596号)」に留意し、それぞれ、「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」又は「学校基本調査」における定義に従います。

(1)「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」における「就職率」の定義について

①「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものをいいます。

②「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者を含みません。

③「就職者」とは、正規の職員(雇用契約期間が1年以上の非正規の職員として就職した者を含む)として最終的に就職した者(企業等から採用通知などが出された者)をいいます。

※「就職(内定)状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年次に在籍している学生等とします。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除きます。

(2)「学校基本調査」における「卒業者に占める就職者の割合」の定義について

①「卒業者に占める就職者の割合」とは、全卒業者数のうち就職者総数の占める割合をいいます。

②「就職」とは給料、賃金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいいます。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしません(就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う)。

(3)上記のほか、「就職者数(関連分野)」は、「学校基本調査」における「関連分野に就職した者」を記載します。また、「その他」の欄は、関連分野へのアルバイト者数や進

3. 主な学修成果(※3)

認定課程において取得目標とする資格・検定等状況について記載するものです。①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの、②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの、③その他(民間検定等)の種別区分とともに、名称、受験者数及び合格者数を記載します。自由記述欄には、各認定学科における代表的な学修成果(例えば、認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等)について記載します。

1. 「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

IT業界は特に技術進化の激しい業界であるが故に、現場に関わる技術者や企業研修を行っている企業の講師が授業を行う事で、最新技術や現在需要の高い技術の習得が出来る体制を取っている。また、それらの科目については共同でシラバス開発を行ったり、授業内容や新規科目の開設についても技術者や企業の意見を柔軟に取り入れるようにしている。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

教育課程編成委員会の委員は本校東京電子専門学校教員と業界・企業関係者等の外部役員から成るものとし、互いの意見を十分に活かし、より良い教育課程の編成を協力して行うものと位置付けている。教育課程編成委員会は2月または3月と、9月または10月に実施し、その意見・内容について教育課程に反映する体制をとるようにする。

教育課程編成委員会の審議結果はその後教務会議と理事会で改めて具体的な方針を決定し、教育課程に反映される。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和3年7月31日現在

名前	所属	任期	種別
森山 真人	LPI-Japan セールス&マーケティング	令和元年9月1日～令和4年9月1日	①
山崎 洋一	(株)クリエイト工房 取締役	令和元年9月1日～令和4年9月1日	③
砂賀 勝己	東京電子専門学校 情報学部学部長	令和元年9月1日～令和4年9月1日	
石井 眞木子	東京電子専門学校 情報学部教員	令和元年9月1日～令和4年9月1日	
坂本 知美	東京電子専門学校 情報学部教員	令和元年9月1日～令和4年9月1日	
山口 眞弘	東京電子専門学校 総務部副部長	令和元年9月1日～令和4年9月1日	

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

(当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合には、種別の欄は空欄で構いません。)

- ① 業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ② 学会や学術機関等の有識者
- ③ 実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回(9月または10月、2月または3月)

(開催日時(実績))

①令和3年3月23日

※新型コロナウイルス感染防止のため、9月に行う委員会を延期した。結果として令和2年度の委員会開催は1回となった。

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

- ・学生指導の仕方、その内容について、いただいた意見を参考に改良、改善をしている。
- ・新規科目の創設や、不要な科目の廃止などカリキュラムに修正を行っている。
- ・シラバスの修正など、授業内容について改良、改善をしている。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

・IT業界は特に技術進化の激しい業界であるが故に、現場に関わる技術者や企業研修を行っている企業の講師が授業を行うことで、最新技術や現在需要の高い技術の習得が出来るようにしている。また、それらの科目については共同でシラバス開発を行ったり、授業内容や新規科目の開設についても技術者や企業の意見を柔軟に取り入れる。

・企業研修と同じ内容の授業を行う事で、実務に近いより実践的な内容の技術を習得できる。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

授業開講前に学内担当教員と企業の実習講師が打合せを行い、実習内容や学生の学修成果の評価方法・評価指標について定める。授業期間中は、学生の実習実施状況や技術習得状況を定期的に把握するために相互に情報交換を行う。全授業終了時には、実習講師による学生の実習成果を踏まえ、実習講師が中心となって成績評価・単位認定を行う。実習講師が単位認定に関して成果不足と判断した場合は、実習講師と担当教員が協議の上、補実習等を行う。

(3) 具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
CompTIA A+ 対策	<ul style="list-style-type: none"> 企業の教育に広く取り入れられているCompTIA A+の内容を学習することで、IT技術者の基礎力となるハードウェア、ソフトウェア、ネットワークの知識について、企業人と同じ内容のものを学習する。 CompTIAは現場の技術者が実務で必要となる知識を問うために作問を行っている試験であるため、これの勉強はイコール実務で必要な知識の習得になる。 	ウチダ人材開発センター(株)
Linux I	<ul style="list-style-type: none"> Linuxの基本的なコマンドや操作手法、遠隔ログインによる操作、ログの取得方法などについて学習する。 合わせてLinuxの資格試験であるLPIC/LinuCレベル1の対策も行う。 開発職/インフラ職どちらにも重要な知識となることから、社会人教育を実施している講師に担当してもらい、実務レベルで必要となる内容なども一部取り入れる。 	(合)Y.M.Education
Linux II	<ul style="list-style-type: none"> Linux Iの知識を基に、Web/メール/DNSなどの各種サーバの構築手法について学習する。 合わせてLinuxの資格試験であるLPIC/LinuCレベル1の対策も行う。 開発職/インフラ職どちらにも重要な知識となることから、社会人教育を実施している講師に担当してもらい、実務レベルで必要となる内容なども一部取り入れる。 	(合)Y.M.Education

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

- 民間企業での研修(派遣型)を通して、民間企業の現状を知り、必要とされる人材等についての動向を得るなど、あるいは外部のセミナー等に参加をし、現在の技術動向の習得と合わせ、外部で無いと分からない、体感できないことに対して積極的に取り組むよう努めている。
- 必要に応じ、企業から講師を招いて最新技術や需要の高い技術に関連するセミナーを開催する。
- 学期ごとに学生による「授業アンケート」を実施し、校長室より個々の教員に結果を示した上で改善点を指摘し、よりよい授業となるよう改良・改善に努めさせている。また、「公開授業」という形で、評価の高かった教員の授業を参観させ、個々の授業の参考とするようにしている。
- 教員の研修は学校法人電波学園の定める「研修等に係る諸規程」に基づき定められている。

(2) 研修等の実績

① 専攻分野における実務に関する研修等

- 研修名: 高度安全支援士
期間: 2021/3/10
内容: “高度安全支援士”資格を継続するための研修
- 研修名: Cisco認定インストラクタ向けTTT 「CCNA Routing&Switching-1」
期間: 2020/8/24-29
内容: Cisco認定トレーナーとなるためのインストラクタ向け研修(セクション1)
- 研修名: Cisco認定インストラクタ向けTTT 「CCNAv7 Switching,Routing,and Wireless Essentials」
期間: 2021/3/8-13
内容: Cisco認定トレーナーとなるためのインストラクタ向け研修(新バージョンのセクション2)
- 研修名: 「情報 I」に向けたプログラミング研修会
期間: 2021/2/13-20
内容: 高校教科「情報 I」の授業指針に関する説明
- 研修名: JavaScriptで学ぶプログラミング超入門
期間: 2021/2/15-20
内容: Monaca を使用した HTML/CSS/JavaScript の模擬授業

② 指導力の修得・向上のための研修等

- 研修名: 2020年公認心理師現任者講習会
実施期間: 2020/12/1~12/23
内容: 公認心理士の受験資格を得るための講習会

(3) 研修等の計画

① 専攻分野における実務に関する研修等

- 研修名: 情報系教員向けAI・機械学習セミナー
期間: 2021/8/2~3
内容: AIや機械学習に関する授業を担当するための知識について学習する。また、授業を行う際のポイント解説なども行う。

② 指導力の修得・向上のための研修等

- 研修名: エゴグラムの基本とキャリアコンサルティングへの活用
期間: 2021/7/31
内容: エゴグラムの見方や使い方に関する研修

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

・学校関係者評価は、学校関係者と企業等の役員や職員などがお互いの理解を深めることを目的とする。
 ・学校評価の基本は自己評価であるが、当然自己からの視点だけでは過不足が生ずる。それを解消するために、本校では広く企業等役員などの学校内部以外からの視点を取り入れ、より適切な学校作りを目指す。

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	教育理念・目的
(2) 学校運営	学校運営
(3) 教育活動	教育活動
(4) 学修成果	学修成果
(5) 学生支援	学生支援
(6) 教育環境	教育環境
(7) 学生の受入れ募集	学生の募集と受け入れ
(8) 財務	財務
(9) 法令等の遵守	法令等の遵守
(10) 社会貢献・地域貢献	社会貢献・地域貢献
(11) 国際交流	なし

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

・新型コロナウイルス感染防止の観点から急遽開始されたオンライン授業について、学校関係者委員会から意見を頂き、オンライン授業のメリット、デメリットが浮彫となった。学校として、コロナ収束後はオンライン授業を続けるか検討をしていたが、メリットを活かし、デメリットを上手く排除することが学科や科目によっては可能となることが分かった。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和3年7月31日 現在

名前	所属	任期	種別
岡本 真梨子	株式会社エスキャリア 執行役員	令和元年9月1日～令和4年9月1日	企業等委員
喜多村 貞一	エーアイテクノロジー株式会社 代表取締役社長	令和元年9月1日～令和4年9月1日	卒業生 企業等委員
松金 隆夫	学校法人沖永学園 帝京短期大学 教授 (一社)千葉県臨床工学技士会 副会長	令和元年9月1日～令和4年9月1日	卒業生 企業等委員
吉田 隆	株式会社サンリツ 取締役	令和元年9月1日～令和4年9月1日	企業等委員

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例) 企業等委員、PTA、卒業生等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

毎年度5月頃に学校HPにて公開している
 学校HP (<https://www.tokyo-ec.ac.jp/>)

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

学校HPや案内書による情報提供と共に、企業等が実際に学生と接する機会を多く設けていける。学内企業説明会をはじめ、実際に企業の方が参加する学内講義や学内実習、及び学生が企業へ出向きそこのインターンシップや企業見学などの機会を取りいれている。これによって、本校の教育活動や運営状況も企業等の学校関係者へ情報提供が可能となっている。

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	学校紹介
(2) 各学科等の教育	学校紹介
(3) 教職員	入学案内書
(4) キャリア教育・実践的職業教育	学校紹介
(5) 様々な教育活動・教育環境	学校紹介
(6) 学生の生活支援	学校紹介
(7) 学生納付金・修学支援	学校紹介
(8) 学校の財務	学校紹介
(9) 学校評価	学校紹介
(10) 国際連携の状況	-
(11) その他	-

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

学校HP (<https://www.tokyo-ec.ac.jp/>)

入学資料

授業科目等の概要

(工業専門課程情報処理科3年制) 令和3年度																
分類	必修	選択必修	自由選択	授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
									講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
1	○			C言語演習Ⅰ	C言語のプログラムを演習を通して作成し、学習する	1年前期	30	1.5			○	○		○		
2	○			C言語演習Ⅱ	C言語のプログラムを演習を通して作成し、学習する	1年後期	30	1.5			○	○		○		
3	○			C言語演習Ⅲ	C言語のプログラムを演習を通して作成し、学習する	2年後期	60	3			○	○		○		
4	○			C言語文法Ⅰ	C言語でのプログラミングの基礎から応用、より実践的なプログラミングの手法について学習する	1年前期	30	2	○			○		○		
5	○			C言語文法Ⅱ	C言語でのプログラミングの基礎から応用、より実践的なプログラミングの手法について学習する	1年後期	30	2	○			○		○		
6	○			Java演習Ⅰ	Javaによるプログラムを演習を通して作成し、学習する	2年後期	30	1.5			○	○		○		
7	○			Java演習Ⅱ	Javaによるプログラムを演習を通して作成し、学習する	3年前期	30	1.5			○	○		○		
8	○			Java演習Ⅲ	Javaによるプログラムを演習を通して作成し、学習する	3年前期	60	3			○	○		○		
9	○			Java文法Ⅰ	Javaによるプログラミング技法、オブジェクト指向の概念について学習する	2年後期	30	2	○			○		○		
10	○			Java文法Ⅱ	Javaによるプログラミング技法、オブジェクト指向の概念について学習する	3年前期	30	2	○			○		○		
11	○			Webプログラミング	Webサーバ上で動作するPHP言語による動的なページの作成手法について学習する。また、サーバ側で行われるデータベース処理の手法についても学習する	2年前期	60	3			○	○		○	○	
12	○			モバイルアプリケーション開発	スマートフォン・タブレット向けプログラムの作成方法について学習する	3年前期	60	3			○	○		○		
13	○			応用プログラミング	.netやPythonなどの開発手法について学習する	3年後期	60	3			○	○		○		
14	○			Python	Pythonの開発手法について学習する	3年後期	60	3			○	○		○		
15	○			UMLⅠ	UMLで使われる用語・概念・表記法に対する知識とモデルの意味を理解する能力を身に付ける	2年後期	30	2	○			○		○	○	
16	○			UMLⅡ	UMLで使われる用語・概念・表記法に対する知識とモデルの意味を理解する能力を身に付ける	3年前期	30	2	○			○		○	○	
17	○			データベース演習(SQL)	データベース操作言語であるSQL文について学習する	2年前期	60	3			○	○		○	○	
18	○			Oracle DBA	Oracleデータベースのインストールから設定、運用方法などについて学習する	2年後期	60	3			○	○		○		

19	○		データベース設計演習	データベースの設計手法について学習する。また実際に設計したデータベースを構築し、管理する手法についても学習する	3年後期	60	3			○	○	○					
20	○		CCNA基礎 I	Cisco社製品のルーター・LANスイッチなどのコマンドなどと、これを用いたネットワーク構築手法などについて学習する	2年後期	60	3			○	○	○	○				
21	○		CCNA基礎 II	Cisco社製品のルーター・LANスイッチなどのコマンドなどと、これを用いたネットワーク構築手法などについて学習する	3年前期	30	1.5			○	○	○	○				
22	○		Linux I	Linuxの概要から、操作方法、コマンド、遠隔操作やログ取得などの方法について学習する。Linux資格であるLPIC/LinuCレベル1の対策も併せて行う	2年前期	60	3			○	○			○	○		
23	○		Linux II	LinuxによるWeb/メール/DNSなどの各種サーバ構築手法について学習する。Linux資格であるLPIC/LinuCレベル1の対策も併せて行う	2年後期	60	3			○	○					○	○
24	○		サーバ構築	Windowsサーバによるドメイン構築やDNS、DHCP、Web、PHPなどのCGI、SQLなど各種サーバの構築手法について学習する	3年後期	60	3			○	○			○			
25	○		仮想化/クラウドコンピューティング	仮想化/クラウドの概念とその技術、コンテナなどについて学習する。演習では実際のクラウドサービスを用いた課題を行う事で、より実践的な内容についての習得を目指す	3年前期	30	2			○	○			○	○		
26	○		システム設計演習	システム開発における上流工程である要件定義～各種仕様書について、実務で使われるものを教材としてその見方や書き方について学習する	3年前期	60	3			○	○			○			
27	○		Web詳論	インターネットビジネス、サイト制作のプロジェクトマネージメント、サイトの企画・設計、デザイン・実装など、実例を元にしながら理解が深まるよう講義する。また、実際にサイトを制作して理解度を深める	3年後期	60	3			○	○			○			
28	○		進級制作	3年次に行う卒業制作の準備として、企画～開発または構築までの過程を実際の制作を通して学習する。	2年後期	60	3			○	○			○			
29	○		進級制作 II	3年次に行う卒業制作の準備として、企画～開発または構築までの過程を実際の制作を通して学習する。	2年後期	60	3			○	○			○			
30	○		卒業制作 I	総合的な演習として各自またはグループでテーマを設定し、設計（企画）から制作、成果発表を行う	3年前期	60	3			○	○			○			
31	○		卒業制作 II	総合的な演習として各自またはグループでテーマを設定し、設計（企画）から制作、成果発表を行う	3年後期	60	3			○	○			○			
32	○		卒業制作 III	総合的な演習として各自またはグループでテーマを設定し、設計（企画）から制作、成果発表を行う	3年後期	60	3			○	○			○			
33	○		アルゴリズム I	フローチャートや構造化チャートを使って、プログラミングの考え方や追跡（トレース）手法を学ぶ。さらに、代表的なアルゴリズムについても学習する	1年前期	30	2	○			○			○	○		
34	○		アルゴリズム II	フローチャートや構造化チャートを使って、プログラミングの考え方や追跡（トレース）手法を学ぶ。さらに、代表的なアルゴリズムについても学習する	1年前期	30	2	○			○			○	○		
35	○		システム設計	システムの計画、設計、開発、テストおよび運用までの各工程における作業内容、およびデータを中心とする設計技法を学習する	2年前期	30	2	○			○			○			

36	○		セキュリティ I	ウィルスやハッカー対策、暗号化通信の仕組みなど、ネットワークの安全な利用に欠かせないセキュリティ管理手法について学習する	1年 前期	30	2	○			○		○	○	
37	○		セキュリティ II	ウィルスやハッカー対策、暗号化通信の仕組みなど、ネットワークの安全な利用に欠かせないセキュリティ管理手法について学習する	1年 後期	30	2	○			○		○		
38	○		セキュリティ III	国家資格である情報セキュリティマネジメントの対策講座	2年 前期	30	2	○			○			○	
39	○		ソフトウェア	コンピュータ・パソコンの基本的な利用技術（ソフトウェア）の知識を学習する	1年 前期	30	2	○			○		○	○	
40	○		ハードウェア I	コンピュータ・パソコンの基本的な原理（ハードウェア）の知識を学習する	1年 前期	30	2	○			○		○	○	
41	○		ハードウェア II	コンピュータ・パソコンの基本的な原理（ハードウェア）の知識を学習する	1年 前期	30	2	○			○		○	○	
42	○		データベース	データベースの概念とリレーショナルデータベースの操作、SQL言語について学習する	1年 後期	30	2	○			○		○	○	
43	○		ネットワーク I	LANやWAN、ネットワークサービス、TCP/IPについて学習する	1年 前期	30	2	○			○		○	○	
44	○		ネットワーク II	LANやWAN、ネットワークサービス、TCP/IPについて学習する	1年 後期	30	2	○			○		○	○	
45	○		ホームページ I	Webページの基本となるHTML・CSSを習得しながら、Webページの設計方法、スタイルシートの適用方法を学ぶ	1年 前期	30	1.5				○	○	○		
46	○		ホームページ II	JavaScriptのプログラミング手法について学習する	2年 前期	30	1.5				○	○	○		
47	○		ITソリューション	「ITを活用した問題解決」をテーマとし、SEとして働くために必要な、業務知識の基礎と、問題を解決するためにITで何ができるか考える力を身に着ける。	3年 前期	30	2	○			○		○		
48	○		表計算基礎 I	マイクロソフトExcelを使用して表計算ソフトの基本的な操作方法、利用方法を学び、オフィススペシャリストの取得を目指す。また、VBAプログラミングの手法についても学習する	1年 前期	30	1.5				○	○	○	○	
49	○		表計算基礎 II	マイクロソフトExcelを使用して表計算ソフトの基本的な操作方法、利用方法を学び、オフィススペシャリストの取得を目指す。また、VBAプログラミングの手法についても学習する	1年 後期	60	3				○	○		○	
50	○		文書編集基礎	マイクロソフトWordを使用してワープロソフトの基本的な操作方法、利用方法を学び、オフィススペシャリストの取得を目指す	1年 前期	30	1.5				○	○		○	
51	○		CompTIA A+対策	CompTIA A+の内容を元に、ハードウェア、ソフトウェア、ネットワークなどITの基礎技術について学習する。また、CompTIA A+の取得を目指しそのための対策も行う	1年 後期	60	4	○			○			○	○
52	○		ITパスポート対策	ITパスポート試験の対策を行う	1年 後期	30	2	○			○		○	○	
53	○		基本情報午前対策	基本情報技術者試験の午前分野、および免除制度に伴う免除試験についての対策を行う	1年 後期	30	2	○			○		○		
54	○		基本情報午後対策	基本情報技術者試験の午後試験に関する対策を行う	1年 後期	30	2	○			○		○	○	
55	○		国家試験対策 I	基本情報/応用情報技術者試験の対策を行う	2年 前期	30	2	○			○		○	○	

56	○	○	国家試験対策Ⅱ	基本情報/応用情報技術者試験の対策を行う	2年後期	30	2	○			○		○	○	
57	○		基礎学力Ⅰ	数Ⅰ、数A程度の数学、漢検3級程度の読み書きなど国語や数学の復習を行う	1年前期	30	2	○			○			○	
58	○		基礎学力Ⅱ	数Ⅰ、数A程度の数学、漢検3級程度の読み書きなど国語や数学の復習を行う	1年後期	30	2	○			○			○	
59	○		基礎英語Ⅰ	情報処理用語が読める程度の基礎的な英語力を身につけるとともに、電子メールなどコミュニケーションに役立つ基礎的な英語力も養う	2年前期	30	2	○			○			○	
60	○		基礎英語Ⅱ	情報処理用語が読める程度の基礎的な英語力を身につけるとともに、電子メールなどコミュニケーションに役立つ基礎的な英語力も養う	2年後期	30	2	○			○			○	
61	○		表現技法	正しい文章を作成するための基本的な知識を習得してから実務に役立つ文章作成能力を身につけます	2年後期	30	2	○			○			○	
62	○		一般常識Ⅰ	社会人として必要な一般知識（漢字の読み書き、計算、文化など日常的な教養）を身につけるとともに、就職対策としてSPIなども練習する	2年前期	30	2	○			○			○	
63	○		一般常識Ⅱ	社会人として必要な一般知識（漢字の読み書き、計算、文化など日常的な教養）を身につけるとともに、就職対策としてSPIなども練習する	2年後期	30	2	○			○			○	
64	○		就職対策Ⅰ	履歴書の書き方や会社訪問の際の手順、注意事項、面接対策など就職活動に必要な、かつ役立つことを学習する	2年前期	30	2	○			○			○	○
65	○		就職対策Ⅱ	履歴書の書き方や会社訪問の際の手順、注意事項、面接対策など就職活動に必要な、かつ役立つことを学習する	2年後期	30	2	○			○			○	○
66	○		ビジネスマナーⅠ	ビジネス社会での電子メールの書き方、名刺の交換、送付状や手紙の書き方などビジネス社会で必要となることを習得する	1年前期	30	2	○			○			○	
67	○		ビジネスマナーⅡ	ビジネス社会での電子メールの書き方、名刺の交換、送付状や手紙の書き方などビジネス社会で必要となることを習得する	2年後期	30	2	○			○			○	
68	○		経営	国家資格である基本情報技術者の経営・マネジメントの内容について学習する	1年後期	30	2	○			○			○	
69	○		課外活動Ⅰ	各種セミナー、研修会、企業研修など	適宜	15	1				○			○	○
70	○		課外活動Ⅱ	各種セミナー、研修会、企業研修など	適宜	15	1				○			○	○
71	○		体育実習Ⅰ	ハイキング、学園祭	1年 通年	60	3				○	○	○	○	
72	○		体育実習Ⅱ	ハイキング、学園祭	2年 通年	30	1.5				○	○	○	○	
73	○		体育実習Ⅲ	ハイキング、学園祭	2年 通年	30	1.5				○	○	○	○	
合計						2850	162.5	1140	30	1680					

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
	2730時間以上かつ156.5単位以上の修了	1学年の学期区分
1学期の授業期間		前期:4~9月 後期:10~3月

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。